

●会場

- ・早急にキャッチネットを購入すべきである。ブロック大会で4コート分の4セットは必要である。10月のJOC九州までには揃えたい。
- ・コートサイズが40mに満たないコートはできるだけ使用すべきでない。また、西南高校が会場になる場合は、AコートとBコートでコートサイズが異なるので、不公平感があるという意見が出た。

●TD業務

- ・給水タイムは予想していたよりも違和感なく、うまく活用できていた。本来は12分あたりでTDが両チームにもうすぐ給水タイムをとると伝え、その後にボールデッドになったタイミングで運用するということがあったが、インプレー中でセットに落とした場面などゲームの流れを止めないタイミングでうまくTDが給水タイムを運用していた。また、マイクアナウンスで「観客の皆さまも給水を行なってください」と補足することで会場全体に意図がうまく伝わっていた。
- ・初日は給水タイムに指示をするなどのケースが見られて、注意をするという場面もあったが、2日目はそのような場面も見られなくなった。
- ・今大会に向けて、記録用紙の記入の仕方、0/TDの任務についての確認シートを準備して有効に使えた。県のHPにアップするなどして県全体で活用していきたい。

●大会準備等

- ・県予選から本大会までに1週間しか時間がなく、準備が大変である。県全体で学連・高体連・中体連・一般・ジュニアとそれぞれで縦の繋がりを作り、大会準備業務などで情報交換や共同で業務を行えるようなシステムづくりが必要だと感じた。
- ・今大会の反省点と課題などを各係で整理して10月のJOC九州で活かしていきたい。
[総務 / 式典（来賓接待） / 審判 / 駐車場 / 会場（公示時計/TDなど）]
- ・直前に審判団の宿舎が本部ホテルから急遽移動になったために多少混乱が出た。

●県内レフェリーを観察して

初日は2会場に分かれたためにすべてのレフェリーを見ることができたわけではないが、それぞれのペアの基準で一貫した判定をしようとしていると感じた。しかし、試合開始直後の時間帯に適切なラインづくりをいかに丁寧にするかをもっと意識すべきである。それによってレフェリーも判定がしやすく、チームサイドもより基準を理解してプレーするという良好な関係ができると考えている。また、「方向指示が最初、その後に必要に応じてジェスチャーを大きく1回入れる」「ターンオーバーの判定後にボールから目を離さない」「オフィシャルとのコンタクト」など審判会議にあるキーワードを大切に大会に臨んでほしいとも感じた。大会二日目は準決勝・代表決定戦・決勝と計8試合であったために、各県帯同のレフェリーのみを担当が与えられた。福岡県からは井手・今泉ペアのみが男子決勝を担当したが、開催県枠として担当した4ペアに割り当てではなく、試合を見ながらの研修となったが試合を観察しながら多くのことを共に学ぶことができた。

参加レフェリー：井手孝行・今泉暢禎	中島敬人・小川拓海	島村奈央美・小松陽子
那須彰浩・新屋勝寛	青木修司・宮崎圭司	萩原佳明・梶原康司